

## 大使コラム（2011年12月）

12月、今年もはや師走となり、皆様にはお忙しい毎日かと存じます。

先月のリスボンでは、激しい雨と20度を超える陽光が交互に訪れる日々が続きました。この時期の初夏のような陽気を、こちらでは「サン・マルティーニョの夏」と呼ぶそうです。ローマ時代の聖人マルティーニョが困った人を助けたところ、空がにわかには晴れ上がったという伝説がその由来とのこと。

11日は「サン・マルティーニョ」の日とされていて、旬を迎えた栗の実を焼いたり茹でたりして、今年の出来たてワインと一緒に楽しむ習慣があります。リスボンでは、ワインの絞り粕を再度発酵させた「アグア・ペ」（足の水の意。足で踏んで搾ったものという意味でしょうか。）と呼ぶ自家製のお酒も飲まれます。あまり上等なワインとは言えませんが、イタリアのグラッパ酒やフランスのマール酒などは、この様な原酒を蒸留したものです。

この季節、リスボンの街のあちこちで見かける「焼き栗」売りのスタンドは、欧州各地の秋の風物詩の一つです。当国の「焼き栗」は、まぶした塩で他の国のものより少し白く見えますが、味は甘くて後を引く美味しさです。

もう一つ、気になる今年のポルトガルのワインの出来映え（ブドウの品質）について、関係者から次のようにお聞きしました。今年は春（4月～6月）が比較的暖かく、雨も多かったため、ほとんどの地域で果実の生育期に白カビの害が起こりやすかった。また、北部のドーロ地方を中心に、ヒョウの被害も見られた。このため、生産量は20%ほど減少したが、白カビ対策に成功したブドウ畑では、平年並以上の品質の果実が収穫された。果実の成熟期に昼夜の気温差が大きいと、果実の糖度を上げる作用があるが、特に7月が比較的涼しかった（夜間の温度が下がった）南部のアレンテージョ地方では、果実の成熟が順調で、高品質のものが収穫された。他の地域でもおおむね同様の現象が見られ、今年のワインは全般に生産量は減少したものの、品質は例年を上回っている、とのことでした。

他方、11月は当国の財政危機の関連で、政府の対応策を具体化する来年度予算案の国会審議があり、月末に可決されました。国民に厳しい負担を強いる予算ですが、事前にリスボンとポルトの両都市圏で行われた世論調査でも、市民の63%がこの予算案を十分理解していると答えています。また、経済の悪化を認識しつつも、41%が国際社会でポルトガルが信用を回復するにはこの予算は必要だと回答しています。

実際、トロイカ（EU, ECB, IMF）との合意の履行状況についても、先月行われたトロイカ側の第二回目の審査で評価を受けたように、この国の対応は政府も国民もかなり頑張っているという印象です。24日に2大労働組合の呼びかけで行われた「ゼネスト」も、公共交通機関が大幅に運休したり、数人の怪我人や逮捕

者はあったものの、整然とした行動が目立ちました。予算案の採決でも、最大野党でトロイカの支援を求めた時の政権党だった社会党は、この予算に反対せず棄権にまわりました。審議の過程では社会党内には反対票を投ずべしとの意見もありましたが、今回は棄権して予算を容認したものの、これから国民の負担が増えていくと、野党や世論の反応はさらに厳しくなっていくと予想されます。

国内は経済問題で厳しい状況ですが、外交面ではポルトガルは11月に国連の安全保障理事会の議長国を努めました。安保理は国連において、世界の平和と安全の維持に主要な責任と役割を果たすため、加盟国に法的拘束力を持つ決定も行える、国連の最重要機関です。昨年、その非常任理事国の選挙で欧米地域の2議席をドイツとカナダとともに争い、激戦を勝ち抜いた当国です。今年から2年間の任期で、既に安保理の「リビア制裁委員会」や「北朝鮮制裁委員会」など重要問題を扱う小委員会の議長も務めています。外務省のコミュニケでも、安保理メンバーと他の加盟国との連携で重要な架け橋の役割を果たして来たことと謳うなど、グローバルな問題にもこの国なりの役割を果たそうとの意気込みが感じられます。経済問題で苦悩しつつも、EU、NATOそしてポルトガル語圏諸国との関係に閉じ籠もらず、よりグローバルな問題へも関与を深めようとする努力は、この国が未来の成長に向けて脱皮する節目となるかもしれません。この面でも、この国の動きを注意深く見ていきたいと思っています。

文化面では、当国の民族歌謡とも言うべき「ファド」が先月、ユネスコの世界無形文化遺産に登録されました。日本でも多少は知られている「ファド」の魅力が、これを機にさらに日本人の関心を引くことを期待します。

また大使館では、日本とポルトガルとの歴史的関係や現代日本に関して、当国の青少年にもっと認識を深めてもらいたいと考え、具体的な企画を教育省と協議してきました。今般、教育省の監督の下に、全国の青少年による日本についての「ブログ・コンテスト」を行うこととなり、関係機関との合意書が署名されました。日本との歴史的関係や現代の日本について、質の高いブログを彼らがインターネットで作成するコンテストです。どのような日本とのイメージが描き出されるのか、結果が出そろそろ来年春の審査が楽しみです。

最後に、先月リスボンの「グルベンキアン劇場」で行われた坂本龍一のコンサートにも触れたいと思います。ヴァイオリンとチェロの奏者と3人で行った坂本のピアノ演奏は、技術面だけでなく音楽への深い情感を感じさせる素晴らしいものでした。当国でも聴衆のレベルが高く、文化公演の質が厳しく問われますが、日本人の世界的な音楽家による演奏に、大劇場を埋め尽くした観客がスタンディング・オベーションで何度もアンコールを求めた姿は印象的でした。

今年の日本は、3月の大震災や原発事故を始め多くの天災などがあり、現在も困

難が続いています。ポルトガルの財政危機だけでなく、欧州や米国のいわゆるソブリン危機もまだ解決の目処がついていません。

本年も残り少なくなりましたが、皆様にはご自愛のうえ、良い年をお迎え下さるようお祈り申し上げます。